

# たけた 市議会 だより

NO. 55  
令和元年11月1日発行



夕暮れの中の小灯り

写真提供者

箴島 孝一 1954年生まれ 竹田市在住

## Profile

1996年 東京総合写真専門学校研究科卒 P S J(日本写真協会会員)

### ● おもな写真展等(個展)

- ・ 東京銀座ニコンサロン 2回 ・ 東京新宿ニコンサロン 3回
- ・ 大阪 ニコンサロン 2回 ・ 裏庭考現学写真集 出版

● mono96FC代表 フィルムでモノクロにこだわり中

- 一般質問 2～ 7
- 予算特別委員会 7
- 第3回定例会の議決結果 8～ 9
- 「市民との意見交換会」 10  
開催案内

# 市政を問う

# 一般質問

令和元年第3回定例会は、9月5日から9月26日まで22日間の日程で開かれました。9月10日・11日、9人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。



吉竹 悟

## 林業政策について

**問** 国は、平成21年2月に森林・林業再生プランを策定。林野庁は、平成25年7月に木材利用ポイント事業を実施。県は、平成26年度から地域材活用住宅建設促進事業を新設。いずれも大きな成果は出ていない。今後の竹田市の目指す林業の方向性について問う。

**市長** 竹田市森林組合の総会・総代会で、素晴らしい経営戦略が生きて、平成30年度も黒字経営を示したと報告があった。林業現場は、携わる方の努力なり創意工夫が第一に求められると痛感した。林業・林政は、基本的に国策だと思っている。農業で野菜等を作る方法論は、多岐にわたり地域性を重視されるが、山林は日本全体で一定の方向で時代を重ねていると思う。職員が2〜3年やっているから林業経営に通じるかという簡単なものではない。それなりの経験を積んだ現場力のある人材を登用することも

考えて、真剣な取組に移行するべきだと感じている。今後は、行政の対応に重点を置くべきだと思っている。

## 獣害対策について

**問** 近年、イノシシシカはもちろんだが、小動物(アナグマ・ハクビシン・タヌキ等)による被害の声が多く寄せられている。他市の例を考慮し、竹田市においても小動物に対する捕獲報奨金を創設するべきだと考えるが、市長の考えを問う。

**市長** 小動物の捕獲報奨金だが、豊後大野市においてアナグマハクビシン等が年間に500頭を超えたといい捕獲状況の報告を受けた。市長会では、イノシシシカの話が焦点となり、小動物については議論が上がっていない。最近の市町村の捕獲報奨金の状況をみると、出していないのが竹田市と日出町のような。指摘の小動物に対する捕獲報奨金は、新年度予算で予算化するべきではないかということ、実態を把握するように内部の調査に取り組んだ。

このほかに、支所機能について質問した。



阿部 雅彦

**森林資源や竹資源の有効活用について**

**問** 木質バイオマスを活用し、熱エネルギーを生み出す事業展開への進捗状況は。

**企画情報課長** 利用できる公共施設の調査や導入及び流通面でのコストを試算している。今後は、国からのバイオマス産産都市の認定を目指して、事業を推進していきたい。

**問** 竹資源の有効活用も考えてはどうか。

**企画情報課長** 市民や民間企業が取り組んでいけるように、計画の中に竹田らしい事業を位置づけていきたい。

**文化行政の取組について**

**問** 歴史的風致維持向上計画の進捗状況は。

**まちづくり文化財課長** これまでに城下町を中心にして、都市再生整備事業としての図書館の新築や無電柱化に取り組んでいる。今後は、岡城跡についても入場者数8万人を目標に

さまざまな方策を考えていきたい。

**問** 市内各地区の伝統芸能をはじめとする歴史や文化の保存をどのように進めるのか。

**まちづくり文化財課長** 用具や施設の整備、映像保存等をしていくための地域計画を立てて、文化財の保存活用を図りたい。

**JR豊肥本線完全復旧を目前にした取組について**

**問** 阿蘇市との観光連携は。また、ジオパークが重要なポイントになるのではないか。

**商工観光課長** 阿蘇市とのブランド観光推進地域協議会を基軸にして、より一層の取組を進めていきたい。

**企画情報課長** 竹田市の持つジオ資源を生かすことは重要であり、阿蘇市や豊後大野市との連携を積極的に取り組んでいきたい。

**問** JR豊後竹田駅及び駅前の魅力づくりについて、考えてみてはどうか。

**市長** JR専属デザイナーの水戸岡鋭治氏の話では、落門の滝、駅舎、駅前広場のバランスは悪くはないが、駅前広場のデザインについては、考える必要があるということであった。



首藤健二郎

**クアハウスについて**

**問** 事業は順調か。

**直入支所長** 顧客対応、温泉、歩行浴、レストラン、宿泊、いずれの評価も良好で順調なスタートがきれた。

**問** 温泉利用型健康増進施設となるには、厚生労働省の認定が必要であるが、いつ認定を受けたのか。

**直入支所長** 認定には至っていない。

**問** 認定をとらないのか。

**市長** 認定の資格を持った施設である、という事である。

**問** 議会には、平成30年8月に認定を受けると説明があったが、いつごろ受けられる予定か。

**市長** 認定申請中、と捉えていただいて結構だ。

**問** 捉えようがない。申請しているのか。

**市長** 受けられるのは、ほぼ間違いなので安心して欲しい。

**問** 申請するには、温泉利用指導者という有資格者が2名必要だが、現

在1名しかいない。このような状況で申請できるのか。

**市長** 近いうちには2名配置されるということ満了、と理解している。

**問** その根拠は。

**保険健康課付課長** 5名の有資格者を育成したが、クアハウスへの就職が決まらない経過があった。外部から有資格者を雇用する方法もある。

**少子化について**

**問** 昨年の出生数が79名。今後も減少が予想される。どのように分析し、どのような対策をしてきたのか。

**企画情報課長** 平成30年度は急激に減少した。新しいフェーズに入ったのかもしれない。地方創生TOP総合戦略で、結婚活動の支援、保育サービスの充実、地域ぐるみ子育て二番宣言、子育てと仕事の両立支援等を行ってきた。若手世代に竹田に残っていただく取組が重要。



こども診療所について

**問** 現状と課題は。

**答** 保険健康課付課長 4月から市の職員3名が医師・スタッフとともに課題の解決策を検討している。少子化が進み利用者の減少が予測されるため、外部の専門家に委託し、経営戦略等を検討している。

**問** 医療事務の専門知識がある事務長が必要ではないか。

**答** 副市長 必要である。一番重要なことは、医師の思いを尊重することである。医師と相談しながら進めていく。



上島 弘二

教職員の時間外労働について

**問** 働き方改革関連法が、本年4月より施行となったが、小中学校教職員の時間外労働の現状と内容及びその調査方法を問う。

**答** 学校教育課長 本格的調査を始めた本年7月以降、原則45時間の規定を超過した教職員は7月48人、8月

5人。時間外の仕事内容は、当日・翌日の授業準備が主で、分掌会議その他。調査方法は、時間外労働の内容・内訳を各自が毎日記録する月末集計方式を採用。

**問** 小中学校教職員の残業時間について、上限を超過した場合の措置を問う。

**答** 学校教育課長 竹田市では各学校に安全衛生委員を置き、管理職とともに業務の整理を行い、該当者に対し早く帰るよう呼びかけを行っている。上限を著しく超過した場合は、管理職と市教委が協議し、業務内容によっては指導主事の援助やアドバイスなどで対応している。

**問** 文部科学省の答申である教職員の「業務のスリム化」が徹底されているか問う。

**答** 学校教育課長 具体的には会議の簡素化・業務の整理と改善を行い、業務に偏りが生じないよう心がけている。

保育所の副食費問題について

**問** 幼・保育の無償化が10月から始まるが、副食費は公的給付の対象から外される。竹田市の副食費はいくらになるか。また、市の助成制度創

設の考えはあるのか。併せて副食費の滞納が生じた場合の市の対応を問う。

**答** 社会福祉課長 副食費の金額は保育所ごとに給食の提供に要した材料費を勘案して定めることになっている。市立保育所の場合は5千円から6千円と設定。また、新たな助成制度を検討することは、現段階では難しいと考える。副食費の滞納問題については、市として保護者と保育所の間に入り、支払いを促すとともに、保護者からの申し出に基づき、児童手当から徴収し、保育所に支払う方法も検討している。



佐藤 美樹

林業施策について

**問** 森林環境譲与税の県内他市の配分状況を聞く。また、大分県森林環境税と国の森林環境税の違いは。

**答** 農政課長 日田市は約8千3百万円、豊後大野市は竹田市と同規模の約2千2百万円。森林面積や林業従事者

数などを基にした配分基準がある。県税は森林保全全般に活用できるが、国税は経営計画対象外の放棄林を管理委託することに重きを置く。

**問** 森林環境譲与税の用途は。

**答** 農政課長 主に森林整備と人材育成、管理委託事業を実行する市の体制づくりに税を活用する。具体的には森林調査とデータ化を進める。後に大きく事業ができるよう、基金の積立が必要と考える。

**問** どのような人材を育成するのか。

**答** 農政課長 林業経営をする事業者と従業員、林業の活性化や保全全般を包括するコーディネーター、専門知識を有する指導者などを育成したい。

**問** 管理放棄林の把握は可能か。

**答** 農政課長 完全把握は難しいが、適正な管理委託には、森林の分析が必須である。大分県森林資源情報と市の森林台帳を照合したものに、航空写真や農業委員会の台帳を複合することにより精度を上げる。最終的に現地確認を行う。

小中学校の統合について

**問** 竹田市長期教育総合計画が示す適正な学校規模とは。

**教育総務課長** 小学校は竹田地域に2〜3校、萩、久住、直入に各1校ずつ配置し、中学校は1学年2学級の規模が望ましいとしている。

**問** 教員の配置は適正か。特に専門科目の教員はどうか。

**学校教育課長** 年度当初は適正配置であったが病欠が生じた。複式学級には臨時講師を配置している。技能教育の専門がない学校では臨時免許申請等で対応している。

**問** 学校統廃合について、教育長の見解を問う。

**教育長** 児童、生徒数や財政面だけでなく、子ども達にとって望ましい形や地域コミュニティへの影響など総合的に考える必要がある。学校運営について、保護者や地域の方々の意見を大切にす。



山村 英治

**国営事業受益地の諸課題について**

**問** 令和2年4月に大蘇ダムからの給水が始まる。竣工まで40年の歳

月を要したため、大分県営大谷ダムに土砂の堆積が進み、国の計画したとおりの配水ができない。かんがい期の荻柏原土地改良区の受益水田へは、4月1日から5月21日までの間、大谷ダム貯水量が20万t以下になつて大蘇ダムから取水できるが、その後はカラにならなければ大蘇ダムから補水ができない。5月22日から梅雨入りまで、受益地全体が今以上の用水不足になる。このことを関係機関はどう捉えているか。

**農林整備課長** 国営事業計画は、全

体の1,865haの受益地への通水が、大蘇ダムと大谷ダム用水の合算した有効貯水量で成り立っている。大谷ダムの堆砂により、計画通りの用水確保ができない事は把握している。これからの各機関の動きに沿って、引き続き、現状の実証をしていく。

**問** 大蘇ダムの試験湛水は10月末ごろまでかかると聞いている。秋から来春までの間は、過去のデータを見ると、ダムへの流入量がほとんどない。カラの状態から、来年4月1日の給水開始まで、どれだけ貯水可能か見極めるのは難しいが、極めて少ないことは予想される。関係機関はこのことをどのように捉えている

か。  
**農林整備課長** 状況把握を共有して早い時期に、その対応を各機関と協議していきたい。

**竹田市総合文化ホールの管理運営について**

**問** 総合文化ホールはどのような組織に指定管理を任せるのか。

**総合文化ホール館長** これから一般財団法人を設立し、令和2年4月1日から指定管理による運営を始める計画である。その後、社会的に信用度が高く寄附金の税優遇措置がある公益財団法人への移行を考えている。



井 英昭

**国営大野川上流土地改良事業について**

**問** 大蘇ダムの供用開始が近づいている。運営管理の実施団体を、竹田市としてはどのように考えているか。

**農林整備課長** 国営の基幹水利施設の維持・管理・操作は、竹田市・阿蘇

市・産山村と、荻柏原土地改良区・萩西部土地改良区・竹田市土地改良区・阿蘇市受益者代表・産山村受益者代表で構成する大野川上流地域維持管理協議会が行う。

**学校統廃合について**

**問** 宮城台小学校が統廃合された後の利用は考えているか。

**教育総務課長** まずは統廃合の手続きを優先し、二区切りついたところで地域と協議する。

**問** 昨年のアンケートで白丹小では55・8%が統合すべきとの結果だった。そして、次の統廃合の対象校は白丹小との答弁があったが、時期はいつか。相手校についても教育委員会での議論はどうなっているか。

**教育総務課長** 今すぐ統合するわけではなく、情報提供をしたうえで、地域や保護者との合意があれば丁寧に協議を進めていく。相手校については具体的に議論していない。

**井** 当事者性を一番に考えてほしい。つまり実際に子育てに関わっている人、具体的に言つと地域の声にかき消されがちな母親の声を第一に考えようように要望する。

**問** 教育委員会で小中一貫校については議論の俎上にのっているか。

**答** 学校教育課長 これまで何度も議論している。大分県内では、大分市や佐伯市に例がある。

**問** 昨年11月のアンケートの対象から漏れた、これから義務教育を受ける0歳から6歳の子を持つ保護者にもアンケートを実施するとの答弁があったが、統廃合対象校の保護者向けアンケートの実施計画はどうなっているか。

**答** 教育総務課長 保護者や地域の方に情報提供しながら、アンケートの項目や方法について協議を行う。これから小学校に入る子を持つ保護者も対象に入れて検討していく。



鷺司 英彰

**竹田市子ども診療所について**

**問** 子ども診療所の現状について聞くと。

**答** 保険健康課付課長 4月22日に落成し開所した。4月から8月までの

利用者は3,279人、1日平均33人の利用があった。アレルギー外来については、4月と8月で17人、昨年4:6:8月の合計88人と比べ少なかった。開院準備や行事等で周知が不足していたことが原因である。

**問** 医師は1人体制である。病気等で医師不在の場合の対応についてはどうか。

**答** 副市長 県や大学、小児科医会、医師会ほか関係機関との連携を密にして安定した診療体制づくりに努めている。

**問** 昨年は指定管理による運営を進めていた。現在はどうか。長期的な展望を聞く。

**答** 副市長 当面は直営で運営していく。今後の方針については、医師との意思疎通を最優先に考え、共に研究し協議していく。

**高齢者福祉について**

**問** 高齢者福祉について、財政面を含めた将来の展望について聞くと。

**答** 保険健康課長 後期高齢者医療特別会計では、竹田市の給付に係る負担金は平成20年の4.6億円から平成30年には5.6億円と増加している。医療機関や各種団体と連携し、

医療費の抑制に努める。

**問** 高齢者福祉課長 介護保険については、健全な財政運営が図られている。保険料も現在の月額5,500円を維持できればと考えている。

**問** 特別養護老人ホームの現状の課題とその解決策を、どう捉えているか。

**答** 高齢者福祉課長 人材不足、職員の高齢化等でサービスの提供が厳しくなってきた。事業所の統合や再編という国の方針にも注視しながら、介護人材確保に向けた竹田市独自の支援策を進める。さらに、労働環境改善のための情報提供も行っていく。



渡辺 克己

**救急医療の現状について**

**問** 最近、ドクターヘリの飛来回数が少ないようだ。搬送回数を聞くと。

**答** 消防長 転院搬送を含む回数は平成27年78件、平成28年66件、平成29年77件、平成30年58件、平成31年(7月まで)26件である。

**問** 平成30年、31年に運航方針の変更があったと聞くが。

**答** 消防長 これまでは通信指令職員が通報内容により判断し出動要請(覚知同時要請)をしていた。現在は傷病者へ接触後、救急隊から出動要請することになった。現場直近への着陸は、安全面の確保から指定した離発着場以外では実施していない。

**問** 救急車での搬送状況について、2次救急指定病院の医師会病院と、大久保病院、管外別に聞くと。

**答** 消防長 管内2次救急指定病院では平成30年以降、地域不応需件数を記録している。聞くと、その数字は、

**問** 市内の救急指定2病院の搬送件数の集計結果は管内72%、管外28%である。管内搬送率が適正なのか。管内2次救急指定病院では平成30年以降、地域不応需件数を記録している。聞くと、その数字は、

**答** 消防長 総務省消防庁、厚生労働省からの要請により「救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査」を行っている。医師会病院について、平成30年は①専門外88件、②処置困難15件、③手術中17件、④ベッド満床10件、⑤理由不明3件、⑥医師不在0件、⑦その他4件で計137件。



**問** 医師会病院のホームページによると、平成29年の手術件数が291件、平成30年は83件。医師不足が考えられるのではないかと。市長 県及び病院と連携し、医大へ医師派遣を要請していきたい。

**成年後見制度について**

**問** 現在の制度利用者数と令和元年度設立予定の「成年後見センター（仮称）」についてはどうか。

**社会福祉課長** 利用者数は平成29年度末で36名。また、将来的に後見制度利用に移行すると思われる方が平成30年度末で51名いる。「成年後見センター」は、本年度中に市内関係機関と協議のうえ、令和2年度に設立する予定。

このほかに、「地域共生社会の実現に向けて」を質問した。

**可決**

## 第3回定例会 予算特別委員会

令和元年度

一般会計補正予算

18億772万4千円増額

(総額: 216億7,096万9千円)

令和元年第3回定例会・予算特別委員会が9月17日・26日の両日開催され、付託された一般会計補正予算を慎重審査した結果、賛成多数で可決されました。(令和元年度竹田市一般会計補正予算(第4号)を含む。)

### 補正予算の概要

**【歳出】**

◆総務費

平成30年度決算余剰金処理に伴う財政調整基金積立金 2億6千万円  
 路線バス維持補助金 500万円  
 総合行政システム調達業務委託料 2,590万8千円

◆民生費

平成30年度の事業費確定に伴う障害福祉費国庫負担金等返納金 2,786万7千円  
 幼児教育・保育の無償化等による施設給付費等負担金 1,214万3千円

◆衛生費

健康療養地活用推進事業に係る経費 860万6千円

◆農林水産業費

大分県農業サポート人材バンク設立支援事業委託料 240万円  
 国営かんがい排水事業大野川上流地区償還金 8億1,117万2千円

◆商工費

日本最強の城「岡城」10万人プロジェクト事業に係る経費 2,500万円

◆土木費

市道維持補修等工事請負費 5,700万円

道路改良舗装事業及び急傾斜地崩壊対策事業に係る県事業負担金 1,709万7千円  
 社会資本整備総合交付金事業(防災・安全交付金事業)に係る経費 2,622万8千円

◆教育費

史跡岡城跡のAR技術等を用いた魅力発信事業に係る経費 8,572万1千円  
 歴史文化館等建設工事請負費 3,776万9千円

◆災害復旧費

農地災害復旧費 4,950万円  
 農業用施設災害復旧費 4,206万円  
 林業施設災害復旧費 610万円

**【歳入】**

市税 7,480万円  
 自動車税環境性能割交付金 1,287万8千円  
 地方交付税 2億9,039万6千円  
 分担金及び負担金 1,686万5千円  
 使用料 △2,283万6千円  
 国庫支出金 1億5,531万8千円  
 県支出金 1億1,569万6千円  
 財産収入 115万8千円  
 寄附金 20万円  
 繰入金 △2億3,817万5千円  
 繰越金 5億1,294万1千円  
 諸収入 1,171万円  
 市債 8億7,677万3千円

# 令和元年 第3回定例会

## 令和元年9月5日～26日 議案等の議決結果

議  
決  
結  
果

条 例 案		
議案番号	件 名	結果
議案第95号	竹田市コミュニティバス運行条例の一部改正について	可 決
議案第96号	竹田市手数料条例の一部改正について	可 決
議案第97号	竹田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正について	可 決
議案第98号	竹田市分担金徴収条例の一部改正について	可 決
議案第99号	竹田市城下町交流プラザ条例の制定について	可 決
議案第100号	竹田市営駐車場条例の一部改正について	可 決
議案第101号	竹田市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第102号	竹田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準を定める条例等の一部改正について	可 決
予 算 案		
議案番号	件 名	結果
議案第90号	令和元年度竹田市一般会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第91号	令和元年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第92号	令和元年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第93号	令和元年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第94号	令和元年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第104号	令和元年度竹田市一般会計補正予算(第4号)について	可 決
一 般 案		
議案番号	件 名	結果
議案第103号	工事請負契約の変更契約の締結について	可 決
議案第105号	財産の処分について	可 決
決 算 認 定 案		
議案番号	件 名	結果
認 定 第 1 号	平成30年度竹田市水道事業会計決算の認定について	認 定
認 定 第 2 号	平成30年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認 定 第 3 号	平成30年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認 定 第 4 号	平成30年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査



認定第5号	平成30年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第6号	平成30年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第7号	平成30年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第8号	平成30年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第9号	平成30年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第10号	平成30年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第11号	平成30年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
諮問案		
議案番号	件名	結果
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について	原案の者適任
請願・意見書案		
議案番号	件名	結果
請願第2号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出についての請願	採択
意見書案第3号	地方財政の充実・強化を求める意見書	可決
意見書案第4号	大分自動車道及び東九州自動車道の濃霧対策に関する意見書	可決

■令和元年第3回定例会 賛否一覧表 ※賛成・反対の双方があった場合のみ表示しています。

議案番号・件名	議員名(議席番号順)													審議結果				
	首藤健二郎	佐藤市蔵	上島弘二	佐藤美樹	鷲司英彰	山村英治	阿部雅彦	渡辺克己	井英昭	徳永信二	日小田秀之	坂梨宏之進	加藤正義		吉竹悟	本田忠	佐田啓二	
議案第102号	竹田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準を定める条例等の一部改正について	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決
議案第90号に対する修正案		○				○	○		○	○						○	-	否決
議案第90号	令和元年度竹田市一般会計補正予算(第3号)について		○		○			○			○	○	○	○			-	可決
附帯決議案第1号	議案第90号 令和元年度竹田市一般会計補正予算(第3号)に対する附帯決議	○		○		○	○	○	○				○		○		-	可決

※議長は表決に参加しないため、表決結果は「-」。 表の見方…○：賛成、-：除斥、欠席などにより表決に加わっていない。

## 議会を傍聴にいらっしやいませんか



所定の受付簿に住所・氏名等を記入するだけで、本会議や各委員会を傍聴することができます。

どうぞ、お気軽においでください。

また、ケーブルテレビでも定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問の中継を行っています。

傍聴席には限りがあるため、希望者が多い場合にはご希望に沿えないこともあります。

お問合せ 竹田市議会事務局 ▶▶ ☎0974-63-4813

# 「市民との意見交換会」を開催します。

テーマ 「人口減少時代における自治会活動」

期日 令和元年**11月12日(火)・13日(水)**

時間 午後**7時～8時30分**

多くの皆様のご参加をお待ちしております!



昨年の様子

開催日時	会場	対象地域
11月12日(火) 午後7時～8時30分	荻公民館	荻地域
	久住公民館	久住地域
	直入支所大会議室	直入地域
11月13日(水) 午後7時～8時30分	社会福祉センター	竹田東部(竹田、岡本、明治、豊岡)
	玉来分館	竹田西部(玉来、松本、菅生)
	姫岳分館	竹田南部(入田、姫岳、宮砥)
	宮城分館	竹田北部(宮城、城原)

## あともがき

「瀧廉太郎記念音楽祭」がサントリ1地域文化賞を受賞した。70年以上にわたり続けてこられた事が評価されての受賞である。かつて岡城跡に音楽堂があった。小学校時代、音楽堂で遊んだ事を覚えている。昔の写真に、その音楽堂で音楽祭をしている写真がある。聞くところによると、何人かでグランドピアノを担いで上がり、寝ずの番をしていたらしい。今や便利な時代になった。しかし、先人たちの情熱やその心意気は、羨ましくもある。

編集委員

首藤 健二郎

